

施設の短期中期のサービス向上への取り組み

1. 社会福祉法人として、利用者の満足を追求する
 - 1) 快食・快便・快眠の促進を追求し、専門職としての質を高め、サービスの質の向上を図り、個別ケアプランに反映する。
 - ・安全に美味しく口から食べていただくために、食べやすい姿勢の継続と口腔ケアの取り組みを多職種で連携し実施していく。
 - ・快適な排泄にむけた個々の排泄把握と対応(ブリストルスケールの活用)の取り組みを進める。
 - ・快眠を意識した環境と支援の取り組み
 - 2) 主体的な生活の組み立ての支援を個別支援計画に反映する。
 - ・ご利用者の生活スタイルや生活リズムに沿った支援の取り組み
 - 3) 安全な生活を送れるためにリスクマネジメントの取り組み
 - ・事故報告、ひやりハット報告から得るリスク要因の検証や感染症等の再発防止への取り組み
 - ・自然災害を含めた備えと防犯等に関する対策を実行する。
2. 社会福祉法人として、家族支援・地域支援の拠点となる
 - 1) 「10年後、20年後に自身が安心して暮らせる地域にする」ための支援として、専門職から情報発信ができる場、専門職に気軽に相談できる場を設定する。(家族介護者教室・法人事業「安心シニア塾」等の活用)
 - 2) 施設機能を活かし、ワンストップでの相談解決に向ける地域包括ケアの実現に向け取り組む。各専門機関との関係を強化し、支援の連携を円滑にする。
 - 3) 地域のシニア世代の方々も役割を持ち、いきいきと生活して頂けるよう、地域交流スペースを活用し、昼食会や催物(映画会等)、応援隊活動等への参加を通じて、居場所・役割づくりを推進する。
3. 社会福祉法人として核となる職員の定着・安心の実現
 - 1) 24時間支援業務を見直し、効率よい業務にむけて常勤・非常勤職員の業務分担や重複業務の整理と簡便な記録入力への取り組み
 - 2) 心身の健康管理にむけ、心のケアや腰痛防止への取り組み
4. 社会福祉法人としての経営体制の確立
 - 1) 目標稼働率達成と加算体制を意識したサービスの組立を図る。
 - 2) 無駄のない適正支出に努める。
 - 3) 内部管理体制により各種法令を遵守した運営を着実なものにする

施設の取組

1. 働きやすい職場(確認しあえるコミュニケーションの実践)
2. 安定した運営に通じる利用実績(目標稼働率実行)の安定(入居に至るまでの効率化と入院者の家族と医療機関との調整)
3. リスク管理の具体化(気づき、検証、対策、確認)
4. 環境整備(照明、床改修の実施と生活空間の整え)
5. 地域の中で福祉施設である緑苑の専門性を活かす。